

「自分の夢のために行動!! 『池野文昭さん講演会』」 (2月8日 やらまいか講演会)



2月8日(水)3・4校時、コミュニティ・スクールの企画で「やらまいか講演会」を行いました。可美中出身でアメリカと日本で活躍されているスタンフォード大学・主任研究員の池野文昭さんをお招きしての講演会です。「大勢の死を看取った佐久間病院時代」「医療イノベーションをおこすシリコンバレー時代」…様々なエピソードを分かり易く、明るく語る池野さん。生徒も職員も地域の方も池野さんのトークとお人柄に引きつけられました。体育館で直接全員が聴けて本当によかったと心から思います。「偉大な先輩」…生徒の感想にそんな言葉が溢れていました。(北村健治)

生徒の感想

- ・日本の未来を変えている人が可美中出身で少し誇らしい。僕もそうなれたらいいな、と感じた。池野さんから「挑戦しない方が後悔する」と聞いて、機会があったら挑戦したいと思った。後輩たちに「この人可美中出身でスゲー」と言ってもらえるように頑張りたい。(1年男子生徒)
- ・第1印象は「ヤバイ人」でした。平気で「人は死ぬ」と言っていたこと…そうだなと思いました。でも「スゴイ人」にだんだん変わっていきました。直接しゃべってみたいなと思いました。会場から質問がどんどん出てきたのに、その時になると私はしゃべれなくなります。これから自信に変えていきたいです。今までの講演会で一番楽しかったです。私の夢は、政治家と看護師です。無理かもしれないけど突き進みたい夢です。将来一緒に仕事をしたいです。(2年女子生徒)
- ・本当に偉大な人だと感じました。約1時間、話が絶えず、その一言一言にこれまでの経験がこもっていて、非常に興味深く面白い話でした。小さなことがきっかけで何十万人の人々を救っている池野さんに憧れを抱きます。まるで私たちの未来を後押ししてくれるような感覚でした。家に帰ったら今日の話を家族にも共有しようと思います。素敵な講演会でした。(3年女子生徒)



←2月14日の
中日新聞より

大主任研究員の医師池野文昭さん(五毛)による「やらまいか講演会」があった。

池野さんは、中学校での生活や医師を目指したきっかけ、これまで体験した山間地医療の苦勞、ス大での研究成果など現在までの足跡を紹介。「人生は一度きり。やる気さえあれば何とかなる。自分の夢のために行動に移すことが大事」と、母校の後輩たちにキャリア教育の視点から未来に向けたメッセージを送った。

可美中では、地域との連携で特色ある教育活動をすすめる「コミュニティ・スクール」を導入しており、講演はその一環。中村瑛駿さん(二年)は「すごい先輩がいるのは、僕たち後輩にとって誇らしいし、目標にもなる」と話した。

(高柳義久)